

新型コロナウイルス感染症への対応について

1. 基本方針

市民病院機構は、患者受入に際して病院ごとに役割を分担し、相互に連携を図るとともに、総力を挙げて取り組むことを基本方針としている。

2. 市民病院機構での対応

(1) 概況

○令和2年度

令和2年3月3日に神戸市内で初めて新型コロナウイルスの感染者が確認されて以降、市民病院機構では神戸市からの依頼・要請に基づき、外来では帰国者・接触者外来を設置するとともに、入院については重症・中等症を中心に新型コロナウイルス感染症患者の受入に対応している。

中央市民病院は市内で唯一の重症患者に対応する特定病院として兵庫県の指定を受け、令和2年11月9日には全国で初めてすべての病床で重症患者の受入が可能な臨時病棟の運用を開始し、軽症・中等症患者の受入を行う西市民病院、西神戸医療センターにおいては新型コロナウイルス感染症の専用病棟を設置し、対応にあたった。

各病院とも、感染拡大期には、コロナ対応のために通常医療において入院・手術等の大幅な制限を実施し、また、中央市民病院、西市民病院では懸命な対応を行う中で院内感染が発生したが、ゾーニング等の感染防止対策を徹底することで、機構の使命である高度医療の提供を両立した。また、ICTを活用し、遠隔診療システムの導入や、患者への面会が難しい中でのWEB面会システムの活用など、状況の変化に迅速かつ柔軟に対応した。

最前線で治療を行う職員の心身の健康確保にも努め、コロナ対応にかかる手当の引き上げや家族等への感染を懸念する職員のために、宿泊施設や車通勤用の駐車場の確保等必要な支援を実施した。

○令和3年度

4月以降の第4波による患者急増に伴い中央市民病院において新型コロナウイルス感染症患者の受入病床はほぼ満床の状態が続いた。また変異株の影響もあり、人工呼吸器管理を必要とする重症患者も急増した。西市民病院・西神戸医療センターにおいては、これまでは軽症・中等症患者を中心に対応していたが、重症に近い中等症患者が増加し、院内で重症化した場合はその対応も行った。

令和3年6月初旬以降、第4波による感染拡大が落ち着いたが、7月下旬より第5波により再び感染者数が急増した。この第5波では、神戸市全体で高齢者のワクチン接種が進み、感染者はワクチン接種未完了の中老年・若年層が中心となった。その影響で西市民病院・西神戸医療センターにおいては第4波と比べ重症化にいたらない比較的軽症な患者が多くなったが、中央市民病院においては、引き続き市内全域で発生する重症患者の対応を担った。

9月30日の緊急事態宣言解除、感染者数の減少を受け、受入病床の一部解消等を行った。10月には中央市民病院で蓄積したコロナ対策のノウハウを共有し今後の医療活動に資することを目的に『新型コロナウイルス感染症対策マニュアル』を作成し、市内のコロナ患者受け入れ医療機関や保健所に配布した。

各病院とも引き続き感染拡大に合わせて必要な病床を確保し、新型コロナウイルス感染症患者の受入および治療を行ってまいりたい。

3. 新型コロナウイルス感染症対応における各病院の役割

新型コロナウイルス感染症入院患者の市内医療機関合計は 6,350 人（令和3年12月8日時点）であり、市民病院機構では市内の入院患者の約4割を受け入れている。治療にあたっては医師・看護師など通常以上の治療体制が必要となることから、医療機能を一部制限（休床）せざるを得なかったが、「市民の生命と健康を守る」という使命のもと、職員が一丸となってこの難局に対応し、救急医療や小児・周産期医療、5疾病に対する専門医療など、市民の生活に不可欠な医療を継続して提供した。

○これまでのコロナ患者受入状況と通常医療の制限（過去最大時）の状況

	中央市民病院	西市民病院	西神戸医療センター	計
主な受入患者	重症患者	軽症・中等症患者	軽症・中等症患者	-
コロナ病床数 ※過去最大時（第4・5波時）	46床 （うち重症36床）	43床	45床	134床 ※市全体最大344床 （うち重症51床）
備考	臨時病棟および 感染症病床で受入	2病棟をコロナ 専用病棟化	2病棟をコロナ 専用病棟化	-
コロナ入院患者 受入数累計 ※12/8時点	1,122人	644人	819人	2,585人 ※市全体6,350人
休床数 ※過去最大時（第4波時）	242床	100床	96床	438床
通常医療への影響 ※過去最大時（第4・5波時）	最大4割程度の 入院・手術を制限	最大4割程度の 入院・手術を制限	最大4割程度の 入院・手術を制限	-
R3（4-9月） 延入院患者数 ※（ ）内はR1比	101,600人 （▲19.4%）	42,247人 （▲28.1%）	58,335人 （▲18.1%）	202,182人 （▲21.0%）

4. 医療物資等の支援

市民・企業・団体の皆様から応援のメッセージや感染対策に必要な物資など、多くのご支援をいただき、「こうべ医療者応援ファンド」からも令和2年度に2.5億円の支援金、令和3年度には0.4億円分の追加支援（Q u oカード）をいただいた。

<参考：新型コロナウイルス感染症関連の寄付受入状況>

令和3年12月8日現在

項目	医療資材	現金	食品	その他	合計
件数	349	309	58	10	726
備考	マスク：約102万枚 防護服：約1万着	約2.0億円	飲料、パン等	花束、タブレット、手 作りネックレス等	団体262件 個人464件

5. 中央市民病院臨時病棟の存続期限の延長

建築基準法第85条による応急仮設建築物として許可を受け建設したが、引き続き、新型コロナウイルス感染症に対応するため、現行法の期限（最長2年3か月）を超えて存続できるよう、制度整備を行うことを国に対して要望している。